



# 広報 川 越



No.1256  
平成23年10月10日  
(毎月10日・25日発行)

昨年の川越まつり(関連記事は裏表紙)

## 地域の輪：2

川越産業博覧会 今年は10月29日(土)・30日(日)です：6

 職人文化の残るまちへ：10

●「すこやかかわごえ」が折り込まれています。

\*川越市ホームページ(<http://www.city.kawagoe.saitama.jp/>)でも、広報川越をご覧になれます。

2012年、川越市は  
市制施行90周年  
を迎えます。





# 地域の価値

わたしたちの住む  
地域社会では、少子高齢  
化などの社会情勢の変化や住  
民一人ひとりの価値観の多様化  
などにより、住民同士のつなが  
りが希薄になってきています。  
地域の中で人と人とをつなぐ  
取り組みの大切さが見直  
されています。

## 変化する地域

少子高齢化により人口構造が大きく変化し、これまで地域の担い手の中心とされてきた世代が、地域から減少しています。夫婦共働き世帯の増加や核家族化の進行も、地域から担い手が減少している原因の一つです。また、地域に対する考え方や個人の価値観が多様化し、「できるだけ近所とかかわらない」という考えを持つ人も増えてきています。

こうした状況が続くと、地域で助け合い、支え合うというつながりが希薄になってしまいます。そして、防災や防犯、高齢者や子育て世代に対する支援、環境保全の取り組みなど、生活に結びつく場面で、さまざまな問題を引き起こします。

住民同士の連帯感が薄れると、地域を持つ、互いを助け合う力は、弱体化します。このことを危ぶむ声は少なくありません。地域の課題を解決するためには、住民同士が協力し、助け合うことが必要です。

この記事では、市内の至るところで行われている、人と人をつなぎ、力を集め、互いに支え合う地域づくりのための取り組みについて紹介します。



## 話すことから広がる輪

この夏、地域の小学生が呼びかけ人となり、自治会連合会第八支会岸町一・二・三丁目自治会(で、振り込め詐欺・交通事故撲滅運動が行われました。三人一組で、一軒一軒、高

齢者の家を訪問。地域の高齢者にチラシを配り、犯罪や交通事故に遭わないように呼びかけました。小学生は、高齢者に直接チラシを手渡しながら、被害に遭わないようにするための注意点などを説明して回ります。

訪問を受けた羽石ユキ子さん(89歳・岸町一丁目・上写真)は、「孫のような子どもたちから、気を付けて」と言われると印象に残ります。ふだんは小学生と話す機会も少ないので、こうした取り組みはうれしいですね」とっこり。

この運動は、防犯や交通安全を呼びかけて、被害を未然に防ごうとするだけではなく、地域内でのコミュニケーションションづくりも目的としています。自治会連合会会長で同支会会長の栗原博司さん(73歳・岸町一丁目)は、「地域づくりで大切なのは、地域の中の距離感を縮めること。近所同士や世代間の距離を縮め、信頼関係を築くことが地域づくりには何より大切です」と話してくれました。

また、この取り組みでは、一人暮らしの高齢者の安否確認ができるほか、子どもが活動を通じた経験を親や兄弟姉妹に話すことで、家庭内の防犯や交通安全に対する意識を高める効果も期待できるそうです。

参加者の平田結衣さん(仙波小6年)は、「初めて会う人を相手に話すときは緊張して、言葉がうまく出てきませんでした。でも、一生懸命に説明を聞いてくれて、いろいろな話をすることができました」と話してくれました。

「こうした活動をそれぞれの自治会が行い、地域の中で人と人をつなぎ、距離を縮める取り組みが広がるといいですね」と栗原さん。

地域の活動を通じて、近所の人と話すきっかけが生まれ、広がる輪があります。



チラシを配りながら説明する小学生。人と人をつなぐ取り組みは、自治会を中心に広がっています。



小学生の話に、熱心に耳を傾ける高齢者の皆さん。



訪問途中、自治会館で行なわれていた老人会の集いに飛び入り参加。





## 顔のわかる地域づくり

今年で八回目を迎えた南古谷地区の「子ども防災キャンプ」。災害時を想定して学校の体育館を避難所に見立て、子どもたちが宿泊体験をします。炊き出しや小さな子どもたちの世話など、このキャンプで重要な役割を果たすのは中学生。キャンプ活動を通じて、中学生には、いざというとき自分たちが地域で率先して行動するという意識が生まれます。

同キャンプ実行委員長の根岸正春さん(59歳・木野目)は、「災害はいつ起きるかわかりません。日中、多くの大人が勤めに出て地域にいないとき、中学生は中心となって活動してくれる頼りになる存在です」と期待しています。

災害時、近くの避難場所が使えない、という想定で会場を地区内の五つの小中学校で持ち回るのも特徴です。「自分が関係する学校以外に入る機会はめったにありません。そのため鍵の保管場所や防災倉庫の位置もわからない。いざというとき、それでは困るので、学校と協力しながら、あえて毎年場所を変えて実施しています」と自治会連合会副会長で南古谷支会長の櫻井晶夫さん(60歳・並木)。

災害時に、自力で避難することが困難な高齢者や障害者に対して、災害情報の提供や避難時の介助を行う災害時要援護者避難支援制度。地域の福祉向上のため、さまざまな取り組みを行う民生委員・児童委員は、この制度で、重要な役割を務めます。地域を見回り、いざというときに助けが必要と思われる方に、制度への登録を勧めています。

「それでも十分に把握することは難しいです」と、自身も霞ヶ関地区で三百を超える世帯を受け持つ市民生委員児童委員協議会連合会会長・久保田高一さん(73歳・笠幡)。

地域の状況を、より把握するために役立っているのが、地域包括支援センターが運営する圏域包括ケア会議です。久保田さんの地区では、「まるごとネット」と名づけられたその

### 地域の輪 見守ります

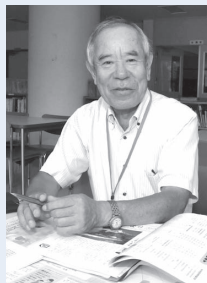
の会議に、在宅介護支援センターやケアマネジャー、医療機関、介護サービス事業者などが、二か月に一度の割合で集ま



り、地域の高齢者を取り巻く課題などを話し合っています。

災害時は、消防などが駆け付けるまでに時間がかかることが考えられます。また、民生委員・児童委員だけでは、支援の手が行き渡りません。そのとき、助けになるのが地域の協力。「災害時に要援護者を『一人も見逃さない』ために、地域で助け合う体制作りが必要です」と久保田さんは話します。

災害時要援護者避難支援制度については、市防災危機管理課(TEL224・5554)までお問い合わせください。



「近所同士は、災害時に話すと安心です」と話す久保田さん。





参加した関根靖浩さん(57歳・久下戸・写真左)は、「子どもたちにできるだけ声を掛けるようにしています。災害時、一度話したことがあるとわかるだけで、安心につながります」。



「だるまさんがころんだ」を楽しむ子どもたち。遊びのリーダーももちろん中学生。避難時には、小さい子どもたちを不安にさせない効果も期待できます。



キャンプの参加者200人分の夕食の準備をする中学生たち。この日のメニューはカレーライス。「こうした経験が、いざというとき自分の役割に気づき、行動できる力に結びつく」のだそうです。

また、キャンプでは「顔のわかる地域づくり」も目指します。参加した岩本良奈さん(南古谷小学校1年・並木)は、「初めて参加したけれど、すぐにお友達ができた」と話してくれました。父親の賀奈夫さん(43歳)は、「地域の大人と子どもが、イベントを通じてコミュニケーションすることで、近所の様子がわかる。近所の顔がわかると、いざというとき、助け合いが円滑にできます」とキャンプの効果を教えてくれました。イベントを通じて、顔のわかる地域の輪が広がります。



子どもたちの登下校を見守る活動、地域の緑を増やす運動、夜間の防犯パトロール、ごみゼロ運動……。人と人が支え合う地域をつくるには、市民の皆さんの協力が欠かせません。自治会をはじめとした、地域づくり活動に参加しませんか。



子どもたちの登下校

を見守る活動、地域の緑を

増やす運動、夜間の防犯パト

ロール、ごみゼロ運動……。人と人

とが支え合う地域をつくるには、

市民の皆さんの協力が欠かせませ

ん。自治会をはじめとした、

地域づくり活動に参加し

ませんか。



## 行政委員の選任(敬称略)

農業委員会委員(9月12日付け)

大泉一夫(54歳・仙波町二丁目一〇・七・川越市議会議員)

川口知子(38歳・豊田本一八六八・一・川越市議会議員)

久保啓一(70歳・藤倉三三三・川越市議会議員)

小林薫(51歳・今成二丁目五・六・川越市議会議員)

\* 農業委員会：農地の利用関係の調整など、主に農地に関する事務を執行。

職員課 ☎224-5553

## 資源循環推進課のお知らせ

資源循環推進課 ☎239-6267

### 布類拠点回収(後期)を実施します

日程など詳しくは、「平成23年度家庭ごみの分け方・出し方」でご確認ください。

昨年度は約百七十の布類が再資源化されました。今年度も引き続きご協力ください。

### 10月30日(日)はごみゼロ運動

ごみゼロ運動は、道路や公園などの公共の場所に散乱しているごみや空き缶を拾い、清潔な環境を保ち、美しいまちづくりをする運動です。

当日は収集車両で運搬作業を行いますので、市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

### 環境美化活動への支援

ごみゼロ運動の日以外に地域の清掃活動を行う団体に対し、ごみ袋の

支給やごみ挟み・啓発用ベスト・リヤカーの貸し出しをしています。

また、川越県土整備事務所(☎243-2020)では、道路の清掃活動を支援する「彩の国ロードサポート」、河川の清掃活動を支援する「彩の国リバーサポート」があり、ゴミ袋の支給やボランティア保険加入などの支援を行っています。

### 市税などの納期のお知らせ

納期限は、10月31日(月)

市県民税(第3期)  
国民健康保険税(第4期)

収納課収納管理担当  
☎224-5686

後期高齢者医療保険料(第4期)  
医療助成課後期高齢者医療担当  
☎224-5842

介護保険料(第4期)  
介護保険課保険料資格担当  
☎224-5817

☎224-5817

# 川越産業博覧会

商工振興課 ☎224-5934

## 力集結! 川越から発進 '11さんぽく

10月29日(土)・30日(日)、午前9時~午後4時 川越運動公園

川越産業博覧会では、市内の産業が一堂に集まり、各種イベントを開催します。会場へは無料送迎バス(川越駅・本川越駅⇄会場)をご利用ください。運行ダイヤについてはお尋ねください。

### 内容

工業・商業・農業のPRおよび工業製品等の展示/東日本大震災で被災した地域(青森県・岩手県・福島県・千葉県香取市)、姉妹友好都市(たなぐらまち 棚倉町・おぼまし 小浜市・なかさつないむら 中札内村)の物産販売/ロボット競技会/スタンプラリー/はしご車試乗体験/フリーマーケット/相続・年金・就労など無料相談/市環境展ほか



## 秋の苗木プレゼント

環境政策課 ☎224-5866

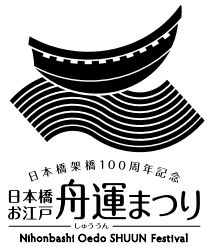
ヤマブキ・ウバメガシなどの苗木を、川越産業博覧会の会場で配布。自治会連合会によるブルーベリーの苗木配布もあります。

日時…10月29日(土)、午前10時45分~

定員…先着500人(なくなりしだい終了)







# 日本橋架橋百周年 記念イベント開催

観光課 ☎224-5940

今年、日本橋が架橋してちょうど百年。これを記念し、当時の舟運を再現します。小江戸川越からお江戸日本橋に向けて、舟行列を実施。日本橋では、小江戸サミットで連携している栃木市(栃木県)・香取市(千葉県)も参加します。

## 新河岸川舟行列

江戸時代の舟運を再現し、火縄銃鉄砲隊舟・お囃子舟・御用舟・荷舟の四艘が、下新河岸を出発。途中、川合善明川越市長が、ふじみ野市・富士見市・志木市・朝霞市・和光市の五市長から中央区長宛の親書を預かります。

日程：10月23日(日)

時間：式典 午前8時30分〜 舟出発 午前9時

航程：下新河岸、福岡河岸(ふじみ野市)、伊佐島河岸(富士見市)、宗岡河岸(志木市)

会場：下新河岸船着場(新河岸川旭橋付近)

## 日本橋お江戸舟運まつり

「日本橋川舟運」が復活！川越市・栃木市・香取市の舟が日本橋に集まります。上陸後、新河岸川舟行列で各市の市長から預かった親書を、川越市長が中央区長に渡します。午後は「日本橋・京橋まつり 大江戸活気パレード」を開催。川越藩火縄銃鉄砲隊が鉄砲演武を行います。

日時：10月30日(日)、午前10時40分〜

会場：日本橋(日本橋川周辺)



## 川越・秩父「姉妹商店街連合会」

### 友好関係を締結

商工振興課 ☎224-5934

今年創立五十周年を迎えた川越商店街連合会。記念事業の一環として、秩父市商店街連合会と「姉妹商店街連合会」の友好関係を締結しました。秩父市商店街連合会とは、秩父が発行したコイン型商品券「和同開珎」を基に川越がコイン型商品券「小江戸川越小判」を発行したことが縁で交流。今後さらに両地域の産業・観光の発展に向けて交流を重ね、相互にイベントの参加などを行う予定です。

## 川越商店街連合会会長・金子憲二さんの話

秩父にある自然と川越にある歴史を活用し、お互いに観光客の交流を図っていきたい。物産などを相互で販売することで、販路拡大にもつながりたいですね。

## 秩父市商店街連合会会長・島田憲一さんの話

観光の活性化は商店街の活性化に直結します。共同のイベントを開催したり、双方で使えるクーポン券を発行したりして、両市に行きたくなる仕組みを作っていきたいです。

9月7日、調印式が行われました。左から、久喜邦康秩父市長、島田憲一秩父市商店街連合会会長、上田清埼玉県知事、金子憲二川越商店街連合会会長、川合善明川越市長。



## ～ひとくち情報～ ミニ・インフォメーション ～ひとくち情報～

- 市有地を売ります 管財課 ☎224-5633  
市が保有する土地を「公募抽選」で売ります。応募締め切りは10月31日(月)、午後4時です。詳しくはお尋ねください。
- 「東日本大震災義援金」の受け付けを、来年3月31日(土)まで延長します 福祉推進課 ☎224-5769  
受付場所は、生活福祉課(本庁舎1階)・福祉推進課(本庁舎4階)・出張所・連絡所です。
- 平成22年度「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書」を公表 教育総務課 ☎224-6074  
同報告書は、10月7日(金)から教育総務課(東庁舎2階)・情報公開窓口(東庁舎1階)・市ホームページで見ることができます。
- 10月16日(日)、大河ドラマ「江」本編終了後の「江」紀行で、川越が紹介される予定です 観光課 ☎224-5940  
NHK総合、午後8時43分ごろから(再放送、22日(土)、午後1時48分ごろから)▶BSプレミアム、午後6時43分ごろから。
- 埼玉県民手帳を販売 情報統計課 ☎224-5561  
10月18日(火)～12月22日(木)、情報統計課(本庁舎分室2階)で販売。県や各市町村の主な統計資料、官公庁の一覧などが付いた便利な手帳です。縦14cm×横8.5cm。500円。色は黒とグレイッシュブルーで、色により内容が異なります。
- 10月20日～12月31日は、不法投棄等防止強化期間です 産業廃棄物指導課指導担当 ☎224-5417  
県と市が連携して、運搬車両の路上調査やパトロールなどの不法投棄等防止の取り組みを実施します。不法投棄を発見したら、すぐに埼玉県産業廃棄物不法投棄110番 ☎0120-530-384(24時間対応)まで通報してください。
- 10月26日(水)は、放置自転車クリーンキャンペーン 安全安心生活課 ☎224-5721  
午前10時～10時40分まで、川越工業高校の生徒などが、川越駅東口・西口で、放置自転車防止を呼び掛けます。

## 「まち」が変わる!? 自治基本条例⑦

政策企画課 224-5503

関東学院大学教授・出石稔さんによる「自治基本条例連続講座」の内容をまとめたものです。

「自治基本条例が制定されて何が一番変わりましたか」と、策定に関わった市民の方に聞くと、まず初めに「職員が変わった」という答えが返ってきました。

皆さんに代わって自治を運営している職員が変わっていくことはすごく大事で、職員の意識が変わって、自治基本条例にのつとった取り組みを進めていくと、行政が変わります。行政が変わると新しい仕組みが

作られ、それに応じて市民の方も変わっていく。市民が変われば地域が変わります。

自治基本条例は「作ったら終わり」ではなく、「使っていくことが大事」です。即効性を期待してはいけません。職員が変わるのではなく、「職員を変える」、「行政を変える」のです。では誰が変わるのでしよう。それは、自治基本条例を使ってみんなを変えていくことだと思っております。

## 大人も楽しめる

### 児童文学

BOOK  
NAVI

中央図書館

222-0559

児童文学とは、子どもが読める文学で、大人も子どもも楽しめる文学のことです。子どもの心をとらえ、さらに大人の心まで

とらえる優れた作品がたくさんあります。

そして、児童文学には挿絵が欠かせません。特に絵

が物語るといわれている絵本では、絵の力が求められています。

中央図書館では毎年、児童文学講演会を開催し、作家や画家など、多彩な講師を招いています。

10月29日(土)に開催する今年の講演会のテーマは「動物画家藪内正幸」画家として、親として。藪内正幸さんの長男、藪内竜太さんが「どうぶつのおかあさん」(写真)「しっぽのはたらき」などの絵本、「野鳥の図鑑」「野や山にすむ動物たち」日本の哺乳類などの図鑑、物語の挿絵、国語辞典のイラストなど、多くの鳥や動物を描いた藪内さんの絵の魅力、父としての姿を語ります。

大人も楽しめる児童文学講演会に、皆さんも参加してみませんか。



小森厚 / ぶん 藪内正幸 / え 福音館書店

## くらしの中の花と緑⑥

緑を増やして  
快適に暮らそう

環境政策課 224-5866

年々深刻になっている地球温暖化やヒートアイランド現象などの環境問題。これらの改善には、「緑」を増やすことが有効です。しかし市街地では地上部に緑化できるスペースが限られています。そこで有効なのは、屋上緑化や壁面緑化。市では、市民の皆さんや事業者が市街化区域内で行うこれらの緑化に補助金を交付しています。

この制度を利用して、「川越モディ」(脇田町)では屋上緑化を実施。「涼しげな緑を眺めていると気持ちが和んでホッとできます」と話すのは、休み時間に屋上を利用するという小野真弓さん。「定期的な水やりと消毒をすれば、それほど手間もかかりません」。

真夏日となったこの日、芝生とコンクリートの上では約10℃の差があることがわかりました。



\*一般の方は屋上に上がりません

建物への緑化は、植物の蒸散作用によるヒートアイランド現象の緩和や、建物内の温度上昇を抑えるなどの効果があり、省エネにもつながります。

緑を身近に感じながら環境問題にも取り組める「屋上緑化・壁面緑化」。自宅や会社で実施してみたいかがでしょうか。



平成22年度に市内の小中学生から募集した作文をまとめた人権文集「あけぼの」から、作品を紹介します。

いつでも強い心をもって①

中学一年

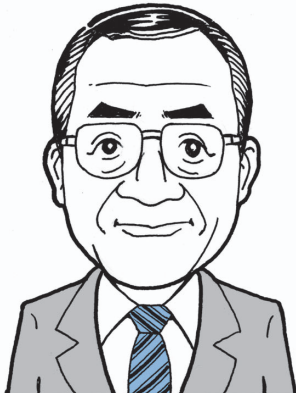
私が小学生のころ、クラス内でのじめがあつた。一人の友達が、何人もの人に嫌がらせをされていたのだ。その友達は、先生の話や約束ごとを聞いていないことが多く、嫌われていた。私は、その友達を嫌いだ

とは全く思っていなかった。なぜかというと、その子はとても素直な人だったからだ。ある日、その子は私に、自分で描いたという絵を見せてきた。何人かの人はその絵をばかにした。確かに、その絵は上手ではなかった。しかし、自分で一生懸命描いた絵を他人に見せるなんて、素直

な人にしかできない。私は、その絵をばかにする人たちが許せなくて、止めようとした。そして「なんで笑っているの。やめなよ。」と言おうとしたのに、なぜか声が出なかった。（私がもし、嫌われているその子の味方になったら、きつとみんなに冷たくされるだろう。）そう思った私

は、その子を守ることができず、見捨ててしまったのだ。ところがある日の席替えで、私はいじめられている子と隣の席になってしまった。すると、その子は私に毎日毎日話しかけてきた。私は、みんなから、その子の味方だと思われるないように、その子の話を聞くだけだった。

(つづく)



# 市長からの手紙

## ⑬自然が復活？消滅？

先日、農家の皆さんと一緒にお酒を飲む機会がありました。いろいろ話をしているうちに、最近身近に見られる動物の話題になりました。水田地帯ではタヌキやキツネが見られるそうです。

そういえば、私の自宅にも、昨年と今年の夏に、タヌキが猫の餌を食べに来ていました。私の自宅では30年ほど前から猫を飼っていて、庭に餌を置いています。猫を飼い始めたのは子どもが捨て猫を拾ってきたのがきっかけでした。自宅の周りには水田で、以前はあぜの草むらなどに捨て猫が多かったのです。

タヌキは、昨年も今年も、6月下旬くらいに姿を見せ、8月終わりごろには来なくなってしまいました。私は生まれてこのかた60年間今の場所に住んでいますが、家の周りでタヌキを見るのは初めてで、一緒に飲んだ農家の皆さんも同じことを言っていました。

ここ20年くらいでしょうか、家の周りの水田に鴨が来るようになりました。また、大型の鳥も何種類か田んぼで見られるようになりました。鶴くらいの大きさの鷺の仲間と思われる鳥も結構頻繁に見られます。これらの鳥は、私が子どものころは、水田で見た記憶は全くありません。以前は、田んぼには白鷺(小鷺でしょうか)と五位鷺しか見かけませんでした。一緒にいた私とほぼ同年代の方も、「いなかったよなあ」と言っていました。

この原因としては、次のような推測ができます。ひとつは、タヌキや鴨や鷺の仲間の数が増えたから(自然が復活)。もうひとつは、動物たちの居場所や餌場が減ってしまったから(自然が消滅)。

自然が再生されたのであれば喜ばしいことです。しかし、どうも自然の動物たちの居場所が狭められ、人間が生活している地域に来なければ生きていけなくなったためである、と考えざるをえないようです。

川越市長 川合善明



# 職人文化の残るまちへ

ひとまち



参加者が見守る中に行われた  
削り初めて競技が始まりました



全国削ろう会川越大会



大鉋による薄削り  
鉋だけでもかなりの重さです



尺爪を吹きながら  
鉋をかけています



計測結果はなんと3マイクロ  
3ミリの1000分の1です



薄削りした鉋屑  
(上)は絹のような  
手触り。削ったあ  
との木材(下)は、  
ガラスのようにピ  
カピカ。



多くの参加者が耳を傾けた研ぎ講習



ゆっくり慎重に引きます

20年以上愛用している鉋で、川越から参加した島崎満雄さん。「初めて参加しました。無心に鉋をかけることができて楽しかった。また参加したいですね」。



ひもを巻くと  
人形の鉋からも鉋屑!?



台を黒御影石で作った  
鉋の切れ味に興味津々

「削ろう会」は、日本の伝統的木工技術を次世代に継承し、それぞれが持てる技術を競い、楽しみながら習練・向上するため、平成9年に発足しました。年に一回程度開催される全国削ろう会は、鉋屑の薄さを競う「鉋薄削り競技」がメインイベント。自慢の鉋と厳選した木材を持ち寄り、楽しみながらも真剣に競い合っています。

9月10日・11日、川越運動公園で行われた鉋薄削り競技には、四百四十九人が参加。二日間で約八千人が来場しました。また、サテライト会場となった鍛冶町広場(仲町)でも、さまざまな体験を実施。実行委員長の原知之さん(幸町)は「この大会を機に、職人文化を継承する川越を創造したいですね」。会場には参加者の熱気と木の香りが、いっぱい広がっていました。



\*⊕はサテライト会場でも撮影しました。





台切り大鋸「よいしょ、よいしょ」



前挽き大鋸での丸太挽き



鉋屑でアードフラワー



小屋組み体験



競技者を越えられるか？親子で薄削り体験



たたら製鉄の実演には川越工業高校の生徒も参加(左)。木の葉鋸体験には、初雁賞を受賞した鋸鍛冶・伊藤守さんが参加(右)。



### ●昭和26年4月20日

全戸配布する形の「川越市政だより」第一号の発行日です。それまでの「川越市公報」は、市の掲示板にはり出す形でした。そこで、市政を市民の目の届くものとし、市政と市民の皆さんの結びつきを強めるため、毎月一回市内全世帯に配布することにしました。タブロイド版(新

### ひとまち

## 六十年目の広報川越

### これまでも、これからも

聞紙の半分程度の大きさ一枚の両面刷りから、川越市の広報は始まりました。

### ●昭和41年4月10日

この号から名称が「広報かわごえ」に変わり、ページも四ページと倍増。翌年に現在の名称である「広報川越」に変わりました。情報の増加に伴い、昭和43年4月からは、毎月10日と25日の月二回発行になります。同44年4月からは、タブロイド版からA4版に。こうして現在の広報の形が出来上がりました。また、同42年ごろから「声の広報」が、同47年から「広報川越点字版」が始まりました。

### ●平成13年2月10日

この年は広報川越五十周年を迎えた年で、広報川越一〇〇〇号の発行日。このころは投書コーナーが充実していました。旅行記を掲載する「旅の空から」や「イラストコーナー」など。その後平成15年に中核市となつた川越。業務の増加とともに情報量はますます増えてきました。このころから25日号はお知らせ中心に、10日号は読み物中心になりました。

### ●平成23年10月10日

インターネットの発達により、ホームページやモバイルサイトからの情報発信は、もはや常識です。さら

に、ツイッターやブログといった新しい情報伝達手段が出現。東日本大震災の際、電話などが使えない中これらが活躍したことを契機に、存在価値が増してきています。

これからの広報は、さまざまなメディアを活用した、多角的なものとなる必要があります。例えばスピードが求められる情報はインターネット、じっくり読んで欲しい情報は紙の広報といったように、情報の性格に応じて、メディアを使い分けていくと考えています。これまでも、これからも、市民の皆さんと行政をつなぐ懸け橋となるために……。



# ガタゴト・ガタゴト川越線の橋梁

広報室 224-5495

小江戸川越検定の設問からテーマを選び、まちの魅力を紹介します。  
設問 市内で一番長い鉄道の橋梁は？

- ①入間川橋梁
- ②新河岸川橋梁
- ③九十九川橋梁
- ④荒川橋梁

大宮駅から川越駅を経由して高麗川駅(三十一・六km)を結ぶ川越線は、昭和15年に全線が開通し、同44年までは、蒸気機関車が走っていました(写真左)。市内の橋梁で一番長いのは、古谷本郷にある荒川橋梁で、全長約八百m。現在は、架線や、川を抜ける風から列車を守るための防風柵が設置されたり、橋げたが太く補強されたりしています。いずれも列車を安全に、ダイヤどおり運行するためのものです(写真右)。

時は流れても、橋梁にかかるアーチ(トラス)や水位計の位置などは、当時のまま。写真を撮ろうとカメラを構えていると、蒸気機関車の力強い汽笛の音が聞こえた気がしました。



鈴木保之さん撮影

荒川橋梁の近くの川越車両センター(並木)には、川越線・埼京線・八高線の車両があります。10月22日(土)には、「川越車両センターまつり」が開催され、珍しい電車の展示や車両洗浄体験などが予定されています。ガタゴト・ガタゴト出かけてみませんか。 答え④



## 川越の栗

ブナ科に属する栗は、ヨーロッパ、アメリカ、中国など各地に自生し、その実は古くから食用とされてきました。日本でも縄文時代の遺跡である三内丸山遺跡で、当時栽培した跡が発見されるなど、古くから貴重な食料でした。

市内では、霞ヶ関・大東・名

細地区を中心に栽培されています。昭和50年ころは約45haでしたが、近年(平成18年)では26haに減少しています。

食べられる部分は、種子が発達したもので、「鬼皮」という固い果皮と「渋皮」という種皮に覆われています。「丸くて、大きくて、固いのがお勧め。揺らさないで自然に落ちる栗がいいですよ」と岸田廣文さん(62歳・天沼新田)。甘味がある「利平」などの品種を栽培。落ちた栗の中でも、いい栗を選別して農産物直売所に出荷しています。よく3年で実がなるとい

ますが、やはりある程度の年数が必要とも……。

ゆでて食べるだけでなく、栗ごはんや栗きんとん、ケーキなど、さまざまな料理に利用できる栗。この秋、農産物直売所などで販売されている川越の栗を食べてみませんか。



イガの中に1つから3つの実が入っています

編集後記

## どんぐり

昨年の川越まつりで、川越市所有の山車に乗ってみました(表紙写真)。一昼

半くらいの場合に、五人囃子と舞の計六人が入ります。そこは身動きできないほど。囃子方の入れ替えも大変な作業です。さらに山車が動く中、中は立っているのがやつとの揺れが……。山車と山車が出会うと、曳つかわせが始まります。自然と囃子に力が入り、ひよつとこ、おかめなどが、山車から飛び出さんとばかりに舞い、祭りを見に来ている人、提灯を持っている人、それぞれからの熱気が直接伝わってきます。

毎年多くの人でにぎわう川越まつり。山車に乗っている囃子方、運行を管理する囃子の皆さん、そして、山車を所有する町の人たち……。華やかな祭りは、多くの人によって支えられています。

今年は10月15日(土)・16日(日)に行われ、十五台の山車が参加します。